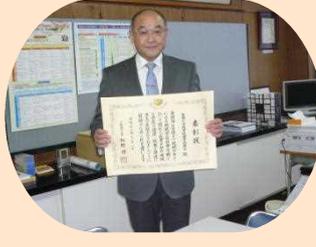




新年を迎え、寒い冬に耐えながらも、春の訪れを心待ちにしている今日この頃です。  
 昨年12月8日、由利本荘市の矢島小学校学校運営協議会が平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。矢島小学校学校運営協議会の佐藤成孝会長が表彰式に出席し、受賞団体を代表して挨拶を述べました。  
 ※学校運営協議会制度とは、学校運営に関して教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む仕組みです。

## 文部科学大臣表彰おめでとうございます！ 矢島小学校学校運営協議会

☆文部科学大臣表彰を受賞した矢島小学校を訪問しました。この日は5年生を対象に「和食マナー教室」が行われていました。地域の方々講師となり、お膳を準備し、はしの持ち方やお吸い物椀の蓋の開け方、魚の食べ方などについて子どもたちに分かりやすく丁寧に教えていました。子どもたちは、講話の後に、お膳や蓋のついたお椀を使い、地域の方々に習ったことを確かめながら実践していました。横田宏校長先生は「和食マナー教室を実施している小学校は、珍しいと思います。地域の方々がいるから実施できています。」とおっしゃっていました。



☆矢島小学校学校支援地域本部コーディネーターの菅原賢一さんにインタビューしました。



→矢島地区は古くから学問の町と言われ、「学校のためなら一肌ぬぐ」という気質があり、コーディネーターが地域の方々をお願いすると、すぐに協力してくれます。学校から年度初めに地域の方々へ協力のお願いと協力できる内容についてアンケートを採ります。学校からの要望があると、コーディネーターがアンケートの内容をもとに地域の方々に依頼します。老人クラブとも連携しており、高齢者にとって、学校と関わりをもつことが生きがいになっています。

☆阿部亨教頭先生にインタビューしました。

→学校支援地域本部事業のおかげで、学校だけではできないことが地域の方々の協力ができるようになってきました。コーディネーターが地域の方々に講師をお願いした後、学校担当職員が地域の方々と電話を使って打合せをするなど、お互いに負担感がないようにしています。地域の方々が学校運営に協力し、学校が地域づくりに貢献しています。

### 受賞が認められた特徴的な活動

- ①地域住民の学校運営参画「保護者、地域住民、学校教職員による『矢島の子どもたちに期待すること』をテーマにした熟議」
- ②地域力を活かした学校支援「子ども見守り隊、クラブ活動、技能教科サポート、読み聞かせ」
- ③学校力を活かした地域づくり「クリーンアップ、地域のお祭り（八朔まつり、雪祭り）への参加、由利本荘市ひな街道キッズおもてなし隊」
- ④学校と地域の共同事業「矢島高校跡地を利用した地域住民と共同で行うひまわりプロジェクト」  
※矢島高校跡地に地域と学校でひまわり畑を作り、ひまわり油やサブレなどを作っています。
- ⑤放課後子ども教室「自主学習や折り紙等の工作活動、体育館でのスポーツ活動」



学校と地域が連携・協働して教育活動を進めることで、経験者の知恵を子どもたちが学べるなど良い効果をもたらし、地域の方々も学校に関わることで生きがいを見出しています。今回参観した「和食マナー教室」の他にも様々な場面で、地域の方々が活躍しています。地域と学校が協働で子どもたちを育む姿が認められ、文部科学大臣表彰受賞となりました。

# 子どもの体験活動と安全安心な居場所づくり



## 放課後子ども教室と児童クラブの連携

潟上市若竹児童センターで実施されている放課後子ども教室「ほうかご元気塾」を訪問しました。ほうかご元気塾は、若竹児童センターと昭和中央地区館で行われています。それぞれ年間32回実施しており、そのうち10回は、児童クラブと連携して活動しています。



今回のほうかご元気塾は児童クラブと連携して実施するクリスマス会です。「ただいま」と元気よく子どもたちが児童センターに入ってきます。「お帰りなさい」と迎えるのは、ほうかご元気塾と児童クラブのスタッフです。それぞれの部屋に入り、家庭学習を済ませてから、ほうかご元気塾の部屋で行われるクリスマス会に参加します。ほうかご元気塾の進藤成子コーディネーターが中心になり、クリスマス飾りの作り方を説明します。児童クラブのスタッフも一緒に指導をします。子どもたちは夢中になって製作し、すてきなクリスマス飾りを完成させました。その後は、クリスマスクイズで楽しみました。

進藤コーディネーターは「放課後子ども教室と児童クラブが連携し、活動することの良さはスタッフが増えることで、子どもたちにきめ細かく支援できることです。スタッフ全員で活動の内容や支援の方法を考えることもできます。課題は児童クラブの保護者にほうかご元気塾の活動をもっと知ってもらうように工夫することです。」と話していました。児童クラブの佐藤恵子指導員からも「一緒に活動することで、児童クラブ指導員も刺激を受けています。」というお話を聞きました。双方が前向きな気持ちで子どもたちのために連携し、活動していました。



子どもの体験活動を重視した放課後子ども教室と安全安心な居場所である児童クラブが連携し、活動することは、子どもたちの活動が広がるなど効果的であり、スタッフが協力し合えるという長所があります。枠にとらわれずに、連携を深めて活動することが、子どもたちを元気付け、成長させています。

## < 第2回中央地区指導者等スキルアップ等研修会 > ～平成28年9月30日～

放課後子ども教室や児童クラブ関係者等を対象に、中央教育事務所主管事業「スキルアップ研修会」が開催されました。市立秋田総合病院の小児科内科診療部長である小泉ひろみ氏から「ネガティブな感情のコントロールについて～子どもの気持ちに寄り添う対応～」をテーマに医療現場での経験をもとにした講話をしていただきました。その後、グループで「気になる言葉を発したり、行動したりする子どもへの対応の在り方」について、日頃感じていることを中心に情報交換しました。最後に、小泉先生への質問があり、全体の場で説明していただくことで、課題を共有しました。



参加者アンケートには、「先生のお話を聞き、子どもの気持ちに寄り添い、具体的に説明して対応することを学んだ。」「他市町村関係者と学校・学童・放課後子ども教室の連携の在り方について情報を共有することができ、問題を解決するヒントをもらった。」とありました。この研修会が、子どもたちのために活動している参加者にとって、日頃の悩みを解決する一助になったと感じています。今後も現場で活かせる研修になるように努めていきたいと思えます。

## リレーコラム「家族を笑顔にする10のヒント～あきたのそちから①!～」



### 「らしさを生かそう！」

### 「認めて・ほめて」がやる気の源

ほめられることは心の栄養になります。そのらしさを認めてあげれば、安心感とともに小さな満足感が生まれ、自分を大切にできるようになります。子どもが自分から「～したい」と言ったときがチャンスです。子どもの「自分でできた!」を大切に、見守りましょう。



☆ほめる内容は当たり前のことでいいのです。  
☆子どもが自分からやろうと決めたことを親が見守り、励ます姿勢が大事です。  
☆親がさせるのではなく、自分でできたと思わせるしかけを心がけましょう。